

令和５年度 住之江区区政会議

第３回 備える部会 会議録

１ 開催日時 令和６年２月１５日（木）１９時００分から２０時００分まで

２ 開催場所 住之江区役所３階 第３－１・３－２会議室

３ 出席者

〔区政会議委員〕

五十崎 晴久 委員、岡田 晋吾 委員、小林 純子 委員、
清水 ちどり 委員、中川 隆夫 委員、濱島 孝夫 委員、
本城 毅士 委員、松岡 孝 委員

（出席８人／定数８人）

〔アドバイザー〕

津川 大輔 住之江警察署生活安全課防犯係警部補
沼田 崇 住之江警察署生活安全課警備課警部補
谷内 成次 住之江消防署地域担当司令

〔住之江区役所〕

吉田 政幸 副区長
岩永 明子 防災安全担当課長
吉岡 敏秀 ＩＣＴ・企画担当課長

4 発言内容

○岩永防災安全担当課長

定刻になりましたので、令和5年度住之江区区政会議第3回備える部会を開催いたします。

事務局の住之江区役所防災安全担当課長の岩永です。よろしくお願いします。

それでは、本日出席いただいている委員の皆様をご紹介します。お手元の名簿にてご確認ください。座席順に、ご紹介させていただきます。

まず、岡田部会長です。

○岡田委員

岡田です。よろしくお願いいたします。

○岩永防災安全担当課長

濱島委員です。

○濱島委員

よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

松岡委員。

○松岡委員

よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

本城委員。

○本城委員

はい。よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

五十崎委員。

○五十崎委員

はい。よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

清水委員。

○清水委員

はい。お願いします。

○岩永防災安全担当課長

中川委員。

○中川委員

よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

小林委員です。

○小林委員

小林です。すいません、遅くなりました。

○岩永防災安全担当課長

よろしくお願いします。

また、本日はオブザーバーとして、住之江警察署と住之江消防署の方にも、お忙しい中、ご参加いただいていますので、ご紹介いたします。

住之江警察署生活安全課防犯係、津川警部補です。

○津川警部補

津川です。よろしくお願いいたします。

○岩永防災安全担当課長

同じく、警備課警備係、沼田警部補です。

○沼田警部補

沼田といいます。よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

住之江消防署地域担当、谷内消防指令です。

○谷内消防指令

いつもお世話になっています。谷内です。よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

本会議は、午後 6 時現在、全委員のご出席をいただいておりますので、定足数である 2 分の 1 以上を満たしておりますことをご報告いたします。

住之江区役所の出席者につきましては、配席表にてご確認ください。

また、発言する際には、役職と名前をお伝えさせていただきます。

この会議は、個人情報などの非公開情報はございませんので公開とさせていただきます。また、本日、傍聴者はおられません。

本日の議論の内容は、3 月 14 日木曜日に開催予定の区政会議全体会で、部会長からご報告をいただき情報共有を図ってまいりたいと考えております。

また、議事録につきましても、後日公表となり、公表する際は、発言者と発言内容についても公開されますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

広報や記録のために写真を撮影いたしますので、併せてご了承くださいますようお願いいたします。

それでは、本日の資料の確認をお願いします。

まず 1 枚目に「次第」、それから「備える部会の委員名簿」、そして「配席図」。資料 1 としまして、カラー刷りの「令和 6 年度住之江区運営方針（案）について」。次に、A 4、1 枚ものの「住之江区予算事業一覧（素案）」。資料 3 として「区政会議について」。その他資料として「市民防災マニュアル」をつけさせていただいております。

不足はございませんでしょうか。

本日の会議ですが、現在策定を進めております「令和 6 年度住之江区運営方針

（案）」についてご報告し、来年度の各取組がよりよいものとなるように、ご意見を
いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日は20時までの1時間を予定しております。スムーズな議事進行にご協力をお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行を部会長にお任せし進めてまいりたいと思います。
岡田部会長、よろしくお願いします。

○岡田委員

それでは、部会の議事を進めさせていただきます。

本日は、「令和6年度住之江区運営方針（案）」について、議論していただきたい
と思います。

では早速ですが、事務局より、その内容についてご説明をお願いしたいと思います。
よろしくお願いします。

○岩永防災安全担当課長

防災担当の岩永です。ご説明させていただきます。

本日の資料は「令和6年度住之江区運営方針（案）」となっております。

まず、運営方針とは、住之江区が重点的に取り組む課題を挙げて、その課題を解決することを目的とした取組を掲げたものになっており、令和6年度も、子どもに関する
こと、地域と福祉に関すること、そして防災・防犯に関することの3つの経営課題を掲げています。

当部会では、そのうちの経営課題3「安全安心なまちづくり」について、ご議論
いただくこととなります。資料には、その課題でめざす主なSDGsゴールを掲載
しておりますので、参考にご覧ください。

それでは、具体的な説明に入る前に、こちらの「令和6年度住之江区予算事業一
覧（素案）」について、ICT・企画担当課長の吉岡よりご説明させていただきます。

○吉岡ICT・企画担当課長

皆さん、こんばんは。住之江区役所 I C T ・企画担当課長、吉岡でございます。
よろしくお願いいたします。以後、着席して説明をさせていただきます。

お配りしております資料 2 の「令和 6 年度住之江区予算事業一覧（素案）」をご覧くださいいただけますでしょうか。

こちらの資料につきましては、令和 6 年度の住之江区関連予算のうち、「区長自由経費」として、区長マネジメントにより施策の選択と集中を進めながら予算算定を行なった予算事業一覧でございます。今後（案）として、市議会でもご議論いただく予定としております。

こちらの一覧には事業名として 1 から 3 5 まで掲載をしております。中でも本日、区政会議委員の皆様にご議論いただく「令和 6 年度住之江区運営方針（案）」に掲げております具体的取組に係る事業につきまして、区政会議の該当部会ごとに色分けをしまして、表の一番右側の列に該当部会名を記しております。

事業一覧のうち、一部の事業につきましては複数の事業が試算して記載しているものがございます。例えば、一番上の①「万博に向けた機運醸成の取組み」というところでございますが、ここには万博の機運醸成を併せた子育てマップ作成として 1 2 万 7, 0 0 0 円を計上。さらに万博機運醸成と併せた防災マップ等作成として 9 7 万 2, 0 0 0 円を計上しております。これらは、それぞれ「育む部会」「備える部会」に該当する取組として色分けをしておりますが、差額の 4 0 5 万 9, 0 0 0 円につきましては、万博の機運醸成に向けた各種啓発グッズの作成費用となっております。このように一部の事業について項目が分れて、合計額は一致しないというものもございますのでご注意ください。

区政会議委員の皆様には、住之江区の予算の概要や、どのような事業が行なわれているかなど、ご覧いただければと思います。

「令和 6 年度住之江区予算事業一覧（素案）」に関する説明は以上でございます。
よろしくお願いいたします。

○岩永防災安全担当課長

それでは続きまして、具体的な説明に入らせていただきます。

「令和6年度住之江区運営方針（案）」の1枚めくっていただきますと、「概要版」として概要を簡単にまとめたものをつけさせていただいております。これまでの課題を踏まえて、令和6年度の方方向性を記載しているものです。

「備える部会」では、「安全・安心なまちづくり」ということで、防災の取組・防犯の取組について、資料に基づき説明させていただきます。

まず、「災害に負けないまちづくり」、こちらが防災の取組です。自助・近助・共助・公助による防災力の高いまちをめざして、特に次の2つのことに取り組んでまいります。

1つ目は、防災力の向上に向けた人材育成。課題としては、浸水想定などの災害想定認知など、防災意識の向上に向けた啓発について、より効果的な方法を検討していく必要があると考えています。方向性としましては、大阪市防災アプリや区政会議でもご意見をいただきながら作成しました「避難カード（携帯版）」などの啓発ツールを活用して、住之江消防署さんとも連携しながら、地域・学校・企業への出前講座や訓練説明会などの機会を捉えて周知をしていきたいと考えています。

2つ目が、減災のための環境整備。こちらの課題は、災害に備え、津波避難ビルや防災パートナーを拡充し、避難場所や備蓄物資などを拡充していく必要があると考えています。方向性としましては、区内のいろいろな団体が集まる、企業・NPO・学校・地域交流会などで呼びかけるなどして、幅広くお声かけをして協力いただける企業を発掘していきたいと考えています。

次、3-2「犯罪のない安心して暮らせる環境の実現」、こちらは防犯の取組です。区民の日常生活での安全を確保できている状態をめざして、特に次の2つのことに取り組んでいます。

1つ目は、「防犯意識の向上に向けた啓発」。課題は、特殊詐欺被害が増加傾向

にあるため、効果的なキャンペーンを行う必要があると考えています。方向性は、動画やすみのえ情報局という住之江区独自の情報発信ツールを使った啓発や、住之江警察と連携をしまして、年金受給日に合わせたキャンペーンを行うなど、詐欺被害防止の啓発を強化していきたいと考えています。

2つ目は、「街頭犯罪抑止のための環境整備」。こちらの課題は、街頭犯罪を抑止するための、より効果的な周知が必要だと考えています。方向性は、周知・啓発活動を継続的に実施するのと併せて、防犯カメラの計画的なメンテナンスを行っていく必要があると考えています。

ここで、前回にいただいたご意見を、少し共有しておきたいと思います。

6ページをご覧ください。この6ページ、7ページが防災の取組へいただいたご意見になります。6ページで、災害の備えの必要性を我が事として捉える意識づけや、備蓄の1週間分だけでなく、簡易トイレを自分で備える意識づけが必要である。地域防災に関わる人たちの高齢化が課題であり、若い人たちにも取り組んでもらう工夫が必要である。7ページでは、マンションごとの防災計画を立てると、より自分事になるのではないかと。最後に、被災者の経験談や障がい者の方の避難時の心配事をまとめた動画を提供することができるといったご意見をいただきました。必要な知識を広報紙などの紙媒体から動画アプリまで多様な啓発ツールを使って、訓練や講座の機会を捉えて伝えていきたいと思っておりますのと、また若い世代に向けては、中学生や保護者世代の方々が防災の備えや知識を持ち、地域防災に関わるきっかけになるよう、中学生防災授業を実施しているといったような取組をご紹介しました。

次に、11ページをご覧ください。こちらが、防犯の取組へのご意見です。空き巣の経験談を近隣で共有することで、防犯対策が進んだ事例もあり、近所付き合いは犯罪抑止に非常に効果的であるといったご意見を受けまして、引き続き、近所というものを浸透させるよう、出前講座などで、引き続き周知・啓発を図ってまいりますとお答えしたところです。

今日、新たに付けました参考資料「市民防災マニュアル」についてですが、こちらでも啓発の際に活用しているツールの1つとなっています。

1枚めくっていただくと、目次をご覧くださいますと、1章では「地震・津波」、2章では「風水害」、3章で「日頃の備え」、第4章で「地域の防災活動への参加」を促し、5章では「避難生活の心得」を掲載しています。広く全般的に防災に関することが載っているものになっております。

例えば、20ページをご覧くださいましたら、こちらが非常備蓄品のリストになっています。上段が非常持出品で、下段が非常備蓄品ということで載っていますけれども、その中には簡易トイレの記載もありますし、一番下の欄外のところですが、物資が届くまで1週間程度自足するつもりで備えてほしいといったようなこともお伝えしているところです。

こういうものも活用して、周知・啓発活動を行っています。

防災で啓発したいことがたくさんありますけれども、1月1日に能登半島で地震が発生したことを受けまして、災害への備えは重要だということを改めて感じたところです。防災は、本当に備えが重要で、災害の被害想定を把握しておく。平時から住居の手入れや家具の固定、避難先の相談、簡易トイレも含めた備蓄物資、非常用持出袋、緊急時の連絡手段の相談などを行っておく必要があると考えています。

また、助かるためには、自助・近助・共助・公助のいずれもが重要で、とりわけご近所付き合いも備えの1つであり、平時から取り組んでおく必要があるというのをお伝えしたいと思っています。

今日の意見交換のポイントとしましては、様々な世代のより多くの人に備えが大切だということに気づいてもらうための有効な情報発信の方法であったり、どんな周知・啓発・案内があれば、こういったことに取り組もうと思うかといったようなことをご意見いただければと思っています。

また、今の啓発内容とか啓発方法へのご意見とかご提案でも、感想でも構いませ

るので、ご意見いただければと思っています。

説明は以上になります。

○岡田委員

ありがとうございました。

ただいま、事務局からご説明がございました。皆様に、先ほど事務局からもございましたように、いろんなご意見あればと思っておりますので、取組内容でもよろしいですし、最後、事務局からお話があった備え、たまたま今能登の地震があつて、あれを見ると、ほんとに1か月というような状況も見えるというところもあります。そのようなことも踏まえながら、それともう1つは、最近私思っているんですけど、その世代、全部の世代に、なかなかこういう広報活動をして伝わらないところが非常に今感じてまして、もう年寄りの発想では無理かなと思ったりしているところでございます。そういうのも踏まえまして、順番にご意見をいただきたいと思いますので、まずは中川さんから順番にお願いいたします。

全体、どんなご意見でも。事務局さんがおっしゃった取組内容についても、こういうやり方でなくて、こういう方法がいいんじゃないかとか、備えてる現実の話とか。

○中川委員

先ほど、全年齢との話がありましたけどね、なかなかそれは難しいので、実際私なんかがやっていますけども、いい年なのでね。やっぱりこの間、10何人おりますけど、そのうちの30代はなかなか出てきません。一応名前だけという形になってしまっている感があるみたいなので。私、防災の研修みたいな形で阿倍野防災センターへ30人ぐらい連れて行くようにしています。コースが増えていました。2時間コース、1時間コースと2つありまして、それでまず自分の身を守るというコースを来月行こうと思っています。それで人数制限もちょっとありますけど、30人集めて行ってこようと思っております。

そして、1つは犯罪のほうがありましたね。電話がかかってくる。これはテレビ

でやっていましたけど、録音機能付きの電話を今推進しているという話で。うちも1つは役所でもらった録音機をつけてるんですけど、あれもやっぱりもっと普及させたほうが。電話を買うよりも、それをつけるほうがいいと思います。ちょっと絡まれたら、録音しますよって何かあれがあるので、それをしたら向こうもひるんで、あれの普及も簡単に出せるように。出ないんですかね、簡単には。

○岩永防災安全担当課長

録音機の貸出しですけれども、今、区役所が窓口になって行っていて、週に何件かは借りに来られていて、全体でいうと、かなりの数は貸し出しています。ぜひ必要な方がいらしたら、お声がけいただけたらと思います。

○中川委員

なるほど。それも周知できるようにしてもらったらいいと思います。

○岩永防災安全担当課長

はい。ありがとうございます。

○清水委員

敷津浦の清水です。

防災意識の向上に向けた啓発というところでは、私も地元の地域、町会で先日も話をしたんですけども、先ほど、阿倍野防災センターに行かれるというお話を聞きました。私も来期の春の間に、若い世代、お子さんを連れた方を対象に、阿倍野防災センターのツアーを組みたいと今検討しています。一度PTAの女性で行かせていただいて、すごいびっくりすることがたくさんあったんですよね。なので動ける人たちとくらべて、小さいお子さんを連れている方とかには、本当にまた違う避難の仕方もあると思いますし、またその大変さを実感していただく機会になったら、もっと防災が身近になるかなと考えて検討しています。

あとは、本当に町会に若い方が来られないので、その交流ができなくて困ってるんですけど、でも一緒に何かお祭りをしたり旅行に行ったり、そういうのは興味なく

でも、皆さん防災に関しては絶対興味お持ちだと思うので、ちょっとまだまだ準備が足りてませんけれども、地域で防災運動会をしたいなと考えています。イベント屋さんでお願いしたらやってもらえるんですけどまあ高いので、ちょっと自分たちでできる範囲で、バケツリレーだったり、担架をつくる競争だったり、担架で人を運ぶ、毛布でつくる担架がありますよね。あれの競争だったりとかしたいなと思っています。

以上です。

○岡田委員

ありがとうございます。

○小林委員

こんばんは。粉浜の小林です。すいません。バスの都合でちょっと遅れました。

1月のあの地震のときに、ちょうど私帰省直前というか新幹線に乗る直前だったので、新大阪駅で揺れに遭いまして、新幹線も30分停電で出発が遅れ、出発してしまえば、その間遅れることはなく時間通りには着いたんですけど、中でスマホのテレビで状況を見ながら、このまま新幹線止まったらどうなるんだろう。帰省も1人だったので、大阪で揺れてた家族は大丈夫なのかとか、いろいろ考えながら、また能登では、すごい大変そうなのに、こんなふうに新幹線で簡単に移動してていいんだろうかという、そんな気持ちにもなったりしました。帰ってからやっぱり、そういうバラバラになったときの避難とかというのはどうしたらいいかという話を、私の家はもう大人だけの家族ですけども、どうしたらいいかということを夫婦で、また主人の家族とも話し合ったりとかしました。粉浜という地域はなかなか大きい建物もなかったりとかするので、あそこに逃げる、ここに逃げるって、そういう話を具体的にしながら、ある意味こういう機会を得られたことはよかったかなと思っていて、でもやっぱりこういうのは、お子さんがいる家庭でもそうでない家庭でも、いろんな世代の方、ご家族でまず話し合うことが一番なんじゃないかなとすごく思いました。なので、一応、防災という意味では、そのような実感も含めて、お話しさせていただきます。

以上です。

○岡田委員

はい。どうもありがとうございます。

○五十崎委員

平林の五十崎です。よろしくお願いします。

今、阿倍野の防災センターのことが出てきたので、過去に町会で行っております。大体30名だったと思います。もう1つ言えば、あそこの1階に危機管理室の備蓄倉庫がありますので、区役所さんをお願いしたら見学できるかも分かりませんということですけど。

町会の催しで、今月の18日に、連合じゃなくて1つの町会で餅つき大会をします。そのときに、女性部から、簡易トイレの使い方を教えてという依頼もありました。以前私が住んでいるマンションで去年の秋に、マンションの秋の集いというお祭りのときにちょっと啓発活動をしようにと思って簡易トイレを買って、一応そういう啓発活動、それをまた利用して、今度また次の日曜日に展示して啓発活動をします。

それと、同じく連合町会で買った備品があります。そういった分を町会の倉庫に入れているので、その辺も使い方、発電機ですとかバールですとか、そういうのも購入しましたので、引っ張り出してきて実際に使ってもらおうということを、今度の日曜日にやろうと思っています。

あと能登半島地震ですけれども、これも私前から言ってるんですけど、今もう阪神淡路から日本も活動期に入っているということで、地理的な面は別にして、やはり同じことが繰り返して起こっているという、やっぱり家がつぶれて圧死されてるというのがおおむねのことです。やはり大事なのは、まず自助ということで、先ほど課長さんからおっしゃってましたが、家屋の耐震診断ですよ。それから始まって家具の固定。まずは、もう自分の命を守るようなことをやってほしい。でも、言われても何かピンとこないというのが大体おおむねの人間性だと思うので、そこでやっぱり前回

も言わせてもらったんですけど、我が事意識をするのには、やっぱり災害図上訓練D I Gとか、この間も私ちょっとやったんですけどクロスロードとか、そういった図上訓練を自分で体験しながら、そういう我が事意識を踏まえていって、やっぱり備えをせなあかんという、ちょっと意識が芽生えていただいたらありがたいなと思います。

以上です。

○岡田委員

ありがとうございます。

○松岡委員

こんばんは。加賀屋東の松岡です。

加賀屋東は、コロナの前は、いつも毎年11月23日に連合町会の防災訓練、それから女性部が炊き出し訓練、それもずっとやってましたけども、去年ようやくまた再開できまして、皆さんやっぱりそういう防災訓練に参加するとか、そういう意識がだんだんみんな、今までちょっとできなかったけども集まっていたいて、それから炊き出しとかそういうこともやったら何か和むものです。人が集まって、ちょっとアルファ米とか、それから豚汁を作っていたいたり、それからそのときには消防署から数名の方が講習並びに応援に来ていただいて、そういうことで、また来年も11月23日、消防署も全面的に協力していただいてまたやる。そういう形になってます。

自分の関係することですけど、能登の震災で、自分の得意先の工場が完全に七尾の能登地区ですね、そこで被災しまして、去年8月に僕その食品工場に機械を入れさせてもらって、そこが大体300人ぐらいの従業員がいる食品工場ですけども被災しまして、正月の1月1日だから仕事始めに一報を入れたら、うちは電気は来てると。工場も大丈夫だと。機械もどうにもなってないと。だけど水が来ない。水が来ないから仕事はできない。ただ、そういう状況だったんですけども、たまたまそこは地下水を自分のところでくみ上げる装置をちゃんとつけてあったんです。それで近所に地下

水を全部提供されて、自分のところの工場も、内々ではそういう操業ができるような状態になったんですけど、表立ってはやっぱり再開できないと。いわゆる、ほかができないのに自分のところだけがそういうことできないと。だから表立ってはできませんと。そういう結果です。なので、やっぱり自助・近助・共助があるけども、やっぱり最終的にはインフラのそういう整備とか、やっぱり行政とか国とかそういうところがどンドンどンドン人員派遣して進めていかないと、やっぱり地域というのは、もうどうしようもないような状況になります。いくら簡易トイレがちょっと備蓄があっても、ほんとに大したことないと思います。やっぱり電気・水、そういうインフラの一番根幹のところがなかったらどうしようもないと思います。だから最後はやっぱり行政の力というのは、何かもっと発揮してほしいなって。そういうのを見ていてつくづく思います。そんなことです。

○岡田委員

ありがとうございます。

○本城委員

こんばんは。本城です。

うちの安立連合はですね、毎年5月に防災訓練があつたり、秋のべいらフェスタということで開催があつたり、1月に餅つき大会ということで、炊き出し的な火を使って炊き出しの訓練も兼ねたという形でやってるんですけども、いかんせんその地域柄、大和川が近いもので非常に堺側の地域の町会と、住吉区側になる浜口の意識というのは非常にやっぱり違ってきますので、危機感の中ではやはり西住之江地域、住之江地域、安立の4丁目地域というのは非常に防災、当時水防団のメンバーも多く、防災リーダーも多くいてるんですけども、小学校しか避難所がないということで、今新たにお話が出てるのは、能登の件で、避難所に開設されたところに食糧が届く、水が届くところはいいですけども、小学校以外、もしくは老人憩いの家、もしくは福祉会館、それ以外の地域で、それを受け入れてくれる耐震であつたり、食糧が届くとこ

ろの確保はできないのかと。また垂直避難できるような強固な建物が、実際お年寄りが歩いて5分、10分、20分歩いてマンションまで行けるのか。低層の住宅街ですので、ここら辺のことがやはり今問題になっているところです。

それと、備えるにつきましては、私、半年前からYouTuberをやってまして、しがな町会長ということで発信していくということでやらせていただいています。きっかけは、お年寄りの方が自分の家を解体されるのに、私の会社が仕事を請け負って見届けたいということだったんですけども、その映像を撮ってその方に見ていただいて、スタートから終わりまで見ていただいたときに、その娘さんが非常に喜んでいただいたと。本城さん、ありがとうということで、そこから撮るように、仕事の部分もありますけども、町会長チャンネルということで、YouTubeで今ほんとにしがな町会長というか。いろいろ薪割りをやったりとか草刈りをやったりとか、私の顔も一部しか出ませんので、姿だけで薪割り、草刈り、餅つき、防災訓練、備える、あと地藏盆、清掃、その7つぐらいのジャンルで今半年やらせていただいています。あと若い者向けにTikTokをなさいということで、TikTokも10本ぐらい、今載せさせていただいています。とにかく小っちゃなお子さんが、うちの町会は190所帯ぐらいで60所帯ぐらいが若いです。新婚所帯が33%ぐらい。国勢調査からいうと250のうち80%ぐらい加入ですけども、非常に若い方がいらっしゃるので、スマホを持ってる方が役員の中でも8割以上、若い世帯はほとんど持ってますので、町会長の名刺の裏にQRを入れて、防災とか、おもしろい絵とか草刈ってるとか薪を割ってる姿とか、そういうのを小っちゃな子どもに見ていただくので、半年で5万ぐらいですかね、それぐらいの方が地域の方であったり、あのおっちゃん、餅つきのおっちゃん、薪割りのおっちゃんみたいな形で、小さな子から、そういうふうに声かけられて、そのご家族両親の方が少しずつ、今年の夏は一応、こども祭りみたいなことを開催しようと思ってまして、そのときに防災であったり、いろんなコミュニケーションを取っていく姿をつくっていききたいなと思っております。

先ほど能登の衝撃的な地震、私も建築をやってますので、あれだけのことが起きたら、大阪市内というか自分の地域がどうなるのかというふうに考えたときには、もうほとんど壊滅に近いなと。そのときに自分には力がないから、皆さんの力を借りてということで、うちの集会所にはテレビがないんですけども、テレビを持ち込んだり、あとプロジェクターを持ち込んだりして、あるごとに編集したものを見ていただく。備えるとか。4年までの風水害のやつを今ちょっと作ってるんですけど、5年前にこういうことありましたよね、やっぱり備えることが大事ですよというので、常に伝える機会を。言葉だとなかなか難しいし、書面もなかなか若い子は目を通さないの、ほとんどはもう見ていただいて、早送りの2倍速、5倍速、パッパッパッパッと見て終わるみたいな、はい、これでまた来月もまた見てくださいと。こういう形で若い方とコミュニケーションを取りながら、お1人お1人やっぱり家族ね、一遍やってるので、お子さんが小さくて小学生で、その200所帯のうち、今60名以上の子どもが町会の中にいますので、それだけ意識が高い間に、やっぱりそういう取組と、あとSDGsと言われるキャップを集めたり、ワクチンの交換に協力していこうとか、古紙を集めたりとか、そういう運動を啓発していきたい。それをまた編集して皆さんに見ていただくというやつをやっていききたいなというふうに思っています。

以上でございます。

○濱島委員

こんばんは。濱島です。

まず1つ、ちょっと厳しいことを言いますが、この資料が届いたのが昨日の晩なんですけど、これを何とかしてもらえないですかね。これ昨日の晩送ってこられて、私夕方6時頃帰ってきて、いろいろなこと、家事も手伝わないといけないし、一杯飲まなアカんし。これを何とか、せめて土日挟んで前に送ってくれたら、もうちょっと私も勉強して、もうちょっと話ができるかなと思うんですけど、いかがなものですか。

○岩永防災安全担当課長

すみません。今回、本当に送るのが遅くなってしまって、事務局のミスでございますので申し訳ありませんでした。次回以降はもっと早く届くようにお送りしますので、よろしくお願いします。

○濱島委員

その間勉強しますので。

警察の方が見えてますので、安全なまちということで、ちょっとご意見言わせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

住之江公園からニュートラム沿いに西へ走りまして南港東1丁目の交差点があります。そこから、車検場のほうへ上っていきますと、あの道路が広くて、トラックが逆で停まってるわ、自分のところの会社の役員用でガードをつくって駐車場にしたりわ、それちょっとひど過ぎて、あそこはちょっと道が広過ぎて横断歩道也没有せん。私の近くに会社があるんですけど、ちょっと大変渡るのに。南港口の駅まで行くのに皆さん苦勞してますので、何とかできないかなと最近思っておりますけど、いかがでしょうか。

○津川警部補

失礼します。住之江警察署の生活安全課の津川がお答えさせていただきます。

まず、道路の関係の横断歩道を設置する、そういったところに関しては、本日私、生活安全課と、警備課の沼田で出席させていただいてますが、担当が交通課ということで、私たちの専門外となりますので、一般的な回答という形でちょっとお答えさせていただきます。

基本的に道路等における公共機関、公共の場所における横断歩道とか歩道橋であるとか、または細かいところでいうと道路標識、そういったものの設置に関しては、国土交通省と綿密に詰めて、警察も意見を交わしながら設置するというふうに私たちは聞いております。ですので、地域のお声から、そういった一旦停止をここに付けてほ

しいとか、ここに信号をつけてほしい。横断歩道をつけてほしい。歩道橋を設置してほしいというお声は警察にいただくのですが、なかなかそういった設置することに関して、そもそもの条件があって設置ができないということが多々あると聞いております。ただ、そういった意見も当然地域住民の方からのお声ということで警察の交通課で集約して、府に上げる。府から国に上げるという形で改善されたというケースもあると聞いておりますので、そういったお声は地域の声ということで、ぜひとも警察の交通課に意見として上げていただければいいのかなというふうに思います。

以上です。

○岡田委員

いろいろなご意見をいただきましたけども、具体的なこの今の取組に、こうしたほうがいいんじゃないかというようなことがあれば、今おっしゃったのは、各町会とかのレベルではうまいことでできてますよと。ただ、それが私のところもそうですけども、地震防災に対しても100%じゃないんですよ、皆さんがね。意識が。そうすると、住之江区民全体でその防災の意識を高めるには、いろんな今、先ほどおっしゃったようなこともいいでしょうし、今までのやり方では、なかなか広報だけでもなかなか皆さんに伝わらないんじゃないかなと私は思っているんです。というのは、うちでもマンションでも、なかなか参加率がだんだん下がってきてるのは間違いないです。それとご高齢の方が増えてくるということは、そういう防災のときに、いや、そんなのできないですわというご意見もいっぱいあるわけです。そうすると、そのたびに誰が助けに行くんだとかいうようなことを思い出すと、なかなか難しい面もあって、まずは自助からいこうと思って備えをやろうということで、いろいろやってるんですけど、果たしてそれが、能登のことを見ていただいたので、少しずつ買い足しとかはしてはると思うんですけど、昔はよく3日とか言ってましたけど、3日どころでは、もうね、この間の能登と、特に南港はですね橋が落ちたら孤島になるんです。もうガス・電気どころか全てがダウンしちゃうと。そうすると、果たしてほんまに何日間分

を個人として備えるべきかとか、いろいろ考えているところでございますけど、うちのところは、もう5年前から1週間分を用意せえということで指導はしてきてます。それが全員、全戸の方が備えてあるかといえ、なかなか難しいのではないかと。今回能登でトイレの話が非常にたくさん報道なさったので、少しはみんな簡易トイレでも買っていたかなと思っています。もう少し実態調査をする必要があるのではないかとしたりはしてるところですけども、割と参加をたくさんなさっている地域と、僕らのところみたいに、なかなか参加しない。それと町会の加入率も今下がっている状況で、ほんとに現実的に防災という意識がどの程度まであるんだろうかなと。それを解決するには、若い人の考え方のことも1つやるというのもいい考えでありますし、その他で、広報とかいっぱい区役所も出していただけてますよね。防災の9月頃にはそういう。それとか今日の市民防災マニュアルとかね。ただ、これを配っただけで、先ほどもおっしゃってましたが、文字だけではなかなかではないとか、というようなことが少しでも、ちょっと時間がなくなってきましたので、今の件に対して、そこだけでもポイントを、ちょっとご意見があったらお聞かせ願いたいなと思いますけど、いかがでしょうか。

○五十崎委員

僕がさっき言ったように、一方的に話をするだけでは、やはり意識が高まらないと。それで先ほど申し上げた、災害図上訓練です。例えばDIG、まち歩きをして、マップ、地図上に自分のところの危険、強いところ、弱いところを確認するという作業。そこに自分のところの地域では、こういう防災に関する機材とか倉庫とか、ここにあるよという、そういった体験的なことをする。それがDIGなんですよ。それでクロスロードというのが、これは阪神淡路の神戸市職員のインタビューで作ったゲームなんですけども、例えば1つの例としたら、避難所に3,000人います。備蓄の食糧が2,000食です。配りますか、配りませんか、そういった2つに1つの選択肢、正解じゃないんですけども、それをイエス・ノーで答えるという、そう

いうゲームがあるんですよね。そういう体験をすることによって、自分事として捉えてもらったら、ちょっと1つは意識が変わるんじゃないかなとは思っております。

○岡田委員

ありがとうございました。

○中川委員

どうやって人を集めるか。先ほどおっしゃったように、やっぱりお年寄りはいいい、考えはあるからもう大丈夫ということで。うちはもう高層マンションばかりなのでね、4階以上の人はもう、恐らく家のことだけでも大丈夫よという話があって、私らも進めていって、その民生委員とかの区役所のリストから挙げて、決めてやりますけどね。やっぱり何か行事あれば、もう出ていかない。もう出てくる人は決まってるんですね。老人会でいつもやってる人ですわ。僕らのところは。そういう方は出てきますけど、それ以外の方は、もうほとんど出てこないですね。だから備蓄とかどうおっしゃっても、ほんとにしているかどうかは、確認したわけじゃないのでちょっと分からないですけどね。ただ、1つだけ聞きたい。ここにある、この一応その3-1-2がありますね。これはパートナーを各自避難場所や備蓄物資と、その避難場所のところに備蓄を置いとけないわけです。先ほどおっしゃったように、小学校だけしかないんですね。うちでは緑と合同になってますから、緑の分という形で置いておいてもらってますけど、前に3か所あった分を2か所にまとめて、ちょっと多めにあると思うんですけど、その辺が当然足りない。

○岩永防災安全担当課長

かなり略して書いてますので、ここで示しています避難場所が津波避難ビルのことになります。一時的に避難できる場所を増やしていこうということで、そういったことにご協力いただける丈夫な建物を持ってらっしゃるところにお声がけをして登録していただく。いざというときには開放して、中に逃げ込めるようにしていただくという取組をしています。

○中川委員

備蓄物資等というのは。

○岩永防災安全担当課長

備蓄物資は、住之江区独自で用意するというよりかは、こういうモノが必要だということを充実させていく、備蓄物資自体は、全市で避難所にどういったものを置くというのが決まっていまして同じように置いてますので、そこに、こういう品目が足りないとなると、全体的に見直して品目を充実させるという方法になります。

○中川委員

備蓄物資は避難場所に全部置いていくというわけではないんですね。

○岩永防災安全担当課長

「避難所」である、小学校などには備蓄倉庫があるんですけど、避難場所は一時的に避難する場所になりますので、マンションだったりとかの場合もありますので、避難の目的も異なりますし、そういったスペースはないので、そこに備蓄物資を置くという意味で書いたものではありません。

○中川委員

全部置いてくれると思った。

○岩永防災安全担当課長

一部、そういう方が避難してこられたときに、さすがにトイレが困るかなということで、簡易トイレを必要とされるとおっしゃった津波避難ビルにはお渡ししていますが、まずは、そこに置けるか置けないかも、協力いただいてる場所によりますので。

○中川委員

そうなる、津波避難ビルの中の避難場所ってどこにあるんですか。部屋の中なんかは違いますね。

○岩永防災安全担当課長

共用スペースということになります。本当に津波が来たときに波にのまれないよ

うに上に逃げるための場所ということですので、そこで生活するという目的ではありませんので、共用スペースということになります。通路だったり階段の踊り場だったり。

○中川委員

ありがとうございます。

○五十崎委員

それと1つ、関係ないかも分かりませんが、ちょっと聞きたいことがあります。今、防災行政無線屋外スピーカーが聞こえにくいと多々いろいろ話が出てると聞いています。私はちょっと考え方が違う方向なんですけど、これは大阪市の防災アプリにお知らせという項目の中に放送内容が出てくるはずなんですけど、各区役所の対応のちがいで、今見ると大正区のところが結構載っているんですけど、その辺はどうなんですか。

○岩永防災安全担当課長

Jアラートとかで試験放送をした際に、防災スピーカーが聞こえにくいというご意見をたくさん頂戴してまして、実際、大阪市内は高い建物が多かったり、スピーカー自体がちょっと市街地向きではないのかなというような見解になっているところなんです。マンションも気密性も上がってますので、窓を閉めていたら室内では聞こえないといったことがあるんですけども、それに代わる災害を知らせるものが多様化してきてる状況にありますので、室内でテレビをつけていたら必ずテレビで流れますし、携帯をお持ちでしたら携帯が鳴りますし、どんな手段でもいいので情報を得てもらいたいと考えています。

防災スピーカーで流れた内容も、即時にいろんなところに共有しますので、それはほかのメディアで文字となって流れたり、音声で流れたりするようになってます。今、五十崎委員おっしゃっていただいたように、防災アプリの中でもお知らせというところで、防災スピーカーで流した内容が流れるようになってます。

大正区さんは、日頃から防災スピーカーを使っておられ、それがアプリに表示されているのだと思います。Jアラートの試験放送のときは全市一斉で鳴らしてますのでお知らせの機能に載ってるところです。

住之江区では、区民のみなさまから、本当にとっても聞こえにくいというお声をいただいているところですので、住之江区役所独自では情報を流したりしてないので、お知らせでは出てこないという形になってます。大正区は、独自で流されてるのだと思います。

○五十崎委員

ありがとうございます。

私自身も、皆さんに地域の方に情報は自分から取りに行ってくださいよということを、そういうことをやってます。先ほどおっしゃったように、多種多様に情報が取れるので、ただ、高齢者の方でもスマホを持っておられない方もやっぱりいらっしゃるので、そういう方にはちょっと教えてあげてねという形でアナウンスしてます。

以上です。

○岩永防災安全担当課長

ありがとうございます。

○濱島委員

いいですか。

○岡田委員

どうぞ。

○濱島委員

最後に1つ。今回の備える部会で問題を1つ入れてほしいと思いますけど、さっきから言ってるように、若い人をどうやって取り込んでいくか、それを議題に入れて検討してくれないかなと思います。

うちのマンションも、中国系の方が結構増えまして、そういう方もどうやって入

れていくかというのもあります。

○岩永防災安全担当課長

ありがとうございます。

おっしゃるとおり、大きなテーマだと思っています。そういったことをどういうふうにしたらうまくいくのかというご意見をいただけたらと思っていますので、テーマの1つとして取り上げてまいりたいと思います。

○岡田委員

私のところでは、防災訓練、防災展とかやるんですけども、やっぱり集まるのが100人は切るんですよ。1,000人近くいるのに10%も来ないわけですよ。それはほんと、あまり興味がないのではないかと考えているところですけど、先ほど言ったSNSで何とかするとか、いろいろやらなあかんとは思ってるんですけど、果たしてそれでも来るかなというところが。特に子どもさんはあまりにも忙し過ぎて、日中の行事には参加できにくいんですよ。スポーツの習い事をしていたり。そうすると、子どもさんをターゲットにしたらいんですけど、子どもさんがお出でになるのは、もうゼロに近いと。先ほどおっしゃった、若いご夫婦で子どもさんが小っちゃいところをターゲットにするとか、いろいろ考えているところですけど、なかなかうまくいかないんですね。だからちょっとこのメンバーでですね、いいアイデアを出していただいて進めていけたら一番いいんじゃないかとは思っているところなんですけど。

それとあとは南港とか、地区ごとによって特有なことがあるので、南港ですと全てマンションなので、倒壊という率がパーセンテージは少し下がるのではないかと考えているので、そうすると避難所に行くよりは自宅なんですよ。そしたら自宅を利用したようなアピールをする必要があるんじゃないかとかいうように思ったりとか、やはり地区ごとによって全然違うようなことがあるんじゃないかなと。特に南港は洪水はないんですよ。川がないですから。高潮だけなんですよ、一番。そのように地

域によっては全然違うし、能登なんか見ていると、倒壊して、もう道路を塞ぐとか、いろいろそういう面が非常に今回よく目立ったなと思っているんですけど、やっぱり南港とはまた違う考え方もせないかん。

それと避難所に、ただ南港では避難所に行く率は少ない可能性のほうが高いかなと。分からないですけどね。ただ、この間のを見ますと、避難所にトイレは駄目だわ、食べ物はない、先ほどおっしゃった電気はない、水道はないとなると、非常にストレスがたまって多分大変だなと思うので、せめて避難所には備蓄がある程度余裕を持ったように置けるような予算取りをするというのも1つの、今回の能登の体験からいくとですね。

○五十崎委員

その防災訓練の参加率が低いのは、まあまあうちのところもそうなんですけども、どこも同じ。やられてるとこは防災を表に出すんじゃなくて、例えば祭りで、ちょっと祭りに関係して防災を引っ付けるという形を取られてるところがあると思うので、そういう進め方もいいんじゃないかなと。ですから区民まつりでもちょっと防災コーナーをつくっていただいて、また他でもいろいろ、北区でも、この間も東住吉で防災フェスタとかやっていますので、その辺をまたよろしくお願いしたいと思います。

○岩永防災安全担当課長

ありがとうございます。

区民まつりでは、防災コーナーはやっておるところです。

ちょっとあまり目立っていないのかもしれないですけど、させていただいてます。もっとやっていくようにしたいと思います。

○五十崎委員

お願いします。

○岩永防災安全担当課長

ありがとうございます。

○岡田委員

どうでしょう。今日は、時間もきましたけど、まだ、もう何時になってもやれと
いうことで。どうですかね、今日まとめるのも一緒にとかはあるんですけど、いろい
ろなご意見が出て。どういうまとめ方をさせてもらっていいんでしょうね。

○本城委員

先ほど私がお伝えしたように、食糧が1週間、今まででしたら3日と言ってるも
のが1週間となった場合、校区ごとに小学校・中学校・高校とありますよね。うちの
連合の場合は小学校校区しかないんですよ。その校区だけにしかなくて1週間と言
った場合、別のところで備蓄をするところが必ず要ということですよ。今までの
体験した3日間という、小学校だけに大阪市から追加で各区に配りますよとなってる
のと違って、それはもう必要不可欠じゃないかと。それをひしひしと思っているので、
それは入れていただきたいなと。

○岩永防災安全担当課長

ありがとうございます。

今の3日間、1週間の備蓄と言っていますが、行政からお配りできるものとい
うことではなくて、行政から支援ができるようになるまでに、それぐらいの時間がか
かるので、ご自宅ということをお願いしているものになるんです。それを今まで3
日間とお伝えしてたんですけど、いろんな大きな災害を見ていると、3日分では心も
とないということで、今は1週間分ぐらいはお家でご用意をというお願いをしてと
ころです。それとは別に、避難所も。

○本城委員

避難所のほうは、避難所に避難された方が食事を取るものですよ。

○岩永防災安全担当課長

はい。そうです。

○本城委員

各個人ですよ。

○岩永防災安全担当課長

はい。

○本城委員

あと、今言われてる、その備蓄されてるのは、例えば、うちの安立小学校であれば700名避難できますよと。700人分は常に一緒に入ってるということなんですか。じゃないですよ。

○岩永防災安全担当課長

じゃないですね。はい。

○本城委員

少ないですよ。

回転、ローテーション回してるでしょうから。

○岩永防災安全担当課長

はい。そうですね。

○本城委員

ただ、基本的には避難された方は、食事を持って避難せなあかんということですか。

○岩永防災安全担当課長

そうですね。また、そこに入っていないものが、いろんなところから支援で入ってきますので、そうなるまでの間の物を。

○本城委員

それは誰。

○岩永防災安全担当課長

ご自分の分をできたらご自分でというのが。

○本城委員

そういう啓発の仕方のほうがいいんじゃないですか。勘違いするんじゃないです

か、皆さん。避難したら、全部面倒見てもらえますよと。そこには、安立小学校にはローテーションで回ってきますよと。その備蓄数は区役所が調整取ってますやから、皆知らないはずですよ。

○岩永防災安全担当課長

そうですね。ホームページのどこかには出てると思うんですけども、大々的にはっきり分かりやすくは確かに出てないと。

○本城委員

この辺が一番大きな問題だったと思うんですよ。その部分を大々的に、東住吉がYouTubeやってるような形で、パンとこう発信していく時やから、そういうのを作って発信していくというのも大事な方法で、我々が今、例えば12月30日に夜回りして、いろんな話をした内容のままに、1日ポンと震災が起きたので、そのことをひしひしと感じてる方もいらっしゃるんです。だからその情報を今いろんな情報ありますけど、避難所行っても食べ物ないねんてなっている。送ってくるのはくるんですけど、誰が受けるという。職員さんも誰もいてない。どんどん送ってくるけどという情報はない。常に、小学校もしくは違うところにそれが確保できてるものがあれば、情報としては、わざわざ持つて行く必要もないし、ひょっとしたら10キロのを担いでおばあちゃんが歩いて小学校まで行けるかといったら、行けない方もいらっしゃるし、その辺のところの発信を分かりやすくしていただけたら。

○岩永防災安全担当課長

はい。ありがとうございます。

そうですね、ほんとに。全員の分で全員が足りるだけ置いとくとなると、これまたすごいスペースが必要になりますので、ご自宅で家族の分1週間と考えただけでもかなりの場所を取るなと思われると思うんですよ。それを今避難所が小学校になりますので、小学校でそういった場所を確保するというのが、これまた、もちろんいろんな方法で考えていかないといけないとは思っているんですけども、今お願いしてる

のが、本当にお家が壊れて住めなくなつて避難所に来る方が入れるかどうかということかなと思ってます。ですので、在宅避難もお勧めをしているところで、家でも過ごせるように、家具の固定だったり備蓄だったりというのをお願いしています。

○本城委員

地震だけでとどまったらいいんですけど、うちの場合は河川があるもので、3メートル80の高波が来たら、もう家があってもビシャビシャになってるという地域。といったらもう避難するしかないのです。

○岩永防災安全担当課長

そうですね。

○五十崎委員

その辺、アナウンスが大事ですので、ちなみに私も手帳にひかえてるんですけども、アルファ化米で800個です。保存水で1,560本、ビスケットで510個という。

○本城委員

それは小学校にということですか。

○五十崎委員

そう。これ、多分大阪市全体の問題なので共通の数になってきます。ですから、そういうのをやはり知識として知っとして、皆さんに周りにアナウンス、区役所さんもそういう形で地域防災リーダーとか、そういう備蓄の一覧表が届いているはずなので、その辺で確認していただいてということで、そういうアナウンスを地域の方にやってもらったほうがいいんじゃないかなと思うんですけど。到底足りません。

ちなみに、避難所だけの在宅避難の方も、そういう部分に入ってきますので、避難者だけの食糧じゃなくて、在宅の避難も取りに来られたら渡すという、そのための、まず避難者数を数えて、それを報告して、また新たに数日後に、大阪市からそういう物資が届けられるという、そういう流れになってます。その辺の知識を地域防災リー

ダーの研修とかで、知っていただいて、地域の皆さんにアナウンスしてもらおうほうがいいんじゃないかなと思います。

○本城委員

分かりました。

○岩永防災安全担当課長

五十崎さん、ありがとうございます。

○岡田委員

ただ、僕の考えとしては、もうどこに何ぼというのを決めて、これしかないですよというプラス、ほんまに1週間後には多分ヘリコプターで何倍と運んでくるなと思ってるんですけどね。

○本城委員

ドローンで飛ばしてくるんじゃないですか。

○岡田委員

避難所では想定何日分の、避難者数プラス何日分は備蓄しますよ。その代わり、その避難所に行かない人、在宅で避難してる人は自分のところで何日分と。だからほんとに備蓄をどこどこに置くべきだというような議論をしたことはあんまりないんじゃないかなと思ってるんですけどね。今、在宅というのが非常にマンションでは大きいんですよね。木造ではなくてコンクリートのところはみんな在宅避難を原則と書いてあるんですよね。そうすると、在宅避難の人が1週間もちますと。そして、もしほんとにマンションでも住めない方は避難所に行くと。そうしたら避難所に700人の避難人数の想定出したら、それが何日分だとかね。だから今の量では少ないというんだったら、もうちょっと増やすとか。ただ、避難所に何日後に持ってきてくれるかですよ。そのヘリだろうが何だろうがね。そういうのをやると、どこどこに何を置けばいいかというのが出てくるんじゃない。今、連合町会の会館とかありますよね。あそこにも置いたらどうだろうとかいう話もあるんですけど、あそこに置いても、

なかなか難しいところもあるなとか言いながらもあるし、ほんとにどことどこにね、拠点で、その1週間なら1週間生活するものがね。

○中川委員

現状をやっぱり知ってもらって、やっぱり1週間は置いとかなあかんいう形で、まだまだ入れてもらったら。現状こんなやから、全部カバーできませんから、これ自分とこで。まず第一に自分のとこで。恐らく、買ってきても逃げられるか分かりませんけどね。うちなんかワンちゃんおるから。そういう現状があるから、現状はこんなしかないよ。だから自分のとこで、これだけの備えはしておいてくださいという形で、最低限、それをもう訴えるしかないと思います。

○岡田委員

そうですね。とりあえず、うちは在宅で持って、プラスマンション用に持ってるんですけど、それはもうたかが知れてますよね。1,000人対象にするとね。

○五十崎委員

やっぱり個人個人持っていただくのが一番ありがたいですね。その辺の広報と意識がどう皆さんに伝わるかいうだけのことで、難しいです。その点はね。

○中川委員

わざわざ防災の備蓄を備えることは、俺もそう言いますけどね。口頭では簡単なんですけど、それがね、ちょっと難しいですね。

○岡田委員

文章に書いて、新聞を発行するんですけどね、なかなか。もうあんたたち、自分で確保するしかないよとか言うんですけどね。

○五十崎委員

僕もたまに言うてるんですけどね。大阪、南部地震が来たら、それほど済むと思うんですけど、今言われてる南海トラフ巨大地震が最悪の状態で起こったら誰も助けてくれることはない。今回の能登みたいに助けに来るとというのが広範囲になります

ので、やっぱりその辺がちょっと一番危ない。南海トラフの一番危険なところと今言われてます。助けになかなか来られない。ですから、2日、3日後に物資が入るかといったら、ちょっとはてな、クエスチョンマークいうのも、そういうのもちょっと伝えていただいて、やっぱり個人個人も備蓄してもらうというのがね。やっぱり各家庭によって、ちょっと違いますけども。だからお年寄りのところは、もう水なんか日常より500mlをちょっと置いといてくださいねとか、そういう形で、やっぱり基本的にはなかなか、そこが浸透するのが難しい。

○岡田委員

危機感を出すような、あおってというようなイメージですかね。いや、広報の仕方としてね。

○五十崎委員

実際、5弱ぐらいのが来たら、あれなんですけどね。来たら来た側でね、危ないから、だからそういうのをちょっと意識付けしてもらったほうが。

○岡田委員

多分、もう水もこない、電気はないですね。多分ね。

お話は尽きぬと思いますが、時間もまいりましたので終わりにしたいと思います。今日の会議の内容は、区政会議の全体会議が3月14日の木曜日に開催される予定でございます。そのときに事務局から、また日にちが変わったりしたらお知らせしていただけたと思いますけど、予定としては3月14日木曜日ということで、予定を入れといていただきたいと思います。

また、今日いろいろな議論、いろいろ議論があり過ぎて、なかなかまとめにくいと思いますが、事務局に、これを整理していただいて、またこの報告を全体会議で備える部会としての報告というふうにさせていただきたいなと思いますので、事務局の方、よろしくお願いいたします。

これで今日の内容が終わりでございますけども、議事進行ありがとうございます

た。今後とも、いろいろありましたら、また事務局におっしゃっていただければ、事務局もいろいろお知恵をいただけたと思いますので、よろしくお願いします。

今日はありがとうございました。

○岩永防災安全担当課長

岡田部会長、ありがとうございました。

本日は長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。

いただいたご意見をしっかりと受け止めまして、今後の区政に反映していけるよう取り組んでまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日の議論を踏まえまして、部会長より指示がございました全体会で報告する資料につきましては、事務局と部会長に一任いただいてもよろしいでしょうか。

それではこれで、住之江区区政会議 備える部会を閉会いたします。また、3月14日に全体会を開催する予定ですのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

以下余白